
桜の守護者

雫雫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の守護者

【Nコード】

N1973N

【作者名】

薙薙

【あらすじ】

幼い頃からいつも来ていた一年中咲く桜の木。

しかし、その桜が枯れてきている。

そんな時少年が桜の下に來ると、そこには美しい少女が倒れていた。

プロローグ

春樹は泣き虫でいつもいじめられていた。

辛いときは、近所の山の神社に一年中咲いている桜の下で泣いていた。

その桜の下で泣いていると、桜が慰めてくれている気がして、だんだんと辛い気持ちも和らいでくるからだ。

そして、時は過ぎて…。春樹は高校生になった。泣き虫だった春樹も今ではすっかり大人びて、心優しい少年に成長した。

成長しても春樹は桜の下に来ていた。

幼い頃に慰めてくれたこと、そのおかげで今があると。

いつも暖かく見守ってくれたと。

春樹はそう言う。

今も支えてくれている。どんなに時が経っても僕は忘れないよ。一生感謝する。君がいてくれたから僕生きていくことができたんだ。

そして今も…。

入学式（前編）（前書き）

どうも、雑雑です。

誤字脱字がありましたらご報告ください。

入学式（前編）

僕は花が好きだ。

スミレ、菜の花、紫陽花、アサガオ、タンポポ、梅、秋桜、向日葵、そして桜…。

様々な形があつて、様々な色があつて、様々な匂いがあつて、様々な季節に咲く。

一生懸命咲いて、種を作つて、そして枯れて…。儂い、小さな命。でも、力強く生きている。そんな花が好きだ。

桜と言うのは3月中旬から4月中旬頃にかけて花を咲かせる。

薄いピンクの花びらが舞い散るその光景は、とても綺麗で素晴らしなものだ。見ていると心が癒やされる。暖かい気持ちになる。

僕が花の中で一番好きな花である。

普通桜は、一年で1ヶ月ほど花を咲かせるものだ。なかには冬に咲くものもあるが、春以外に咲くことはほとんどない。

しかし、そんな常識を覆すものがある。

それは、一年中花を咲かせ、周りは花びらが舞い散らせる桜である。たとえ雨が降っても雪が降っても枯れることはない。

なぜ枯れないのか、どうなってるのか、周りの住民は気味悪がつて近づこうとはしない。

だが、僕は違う。いつもその桜の下に来ている。桜の下に来て、何をするのかと言うと、ただ語りかけている。側から見ると頭がおかしいと思われるだろうが、そんなことは構わず、悲しかったことや腹が立ったこと、嬉しかったことなど今日あった出来事を話す。もちろん誰もいないのだが、桜が風に揺れると返事をしてくれたように思えて、なんだか嬉しくなるのだ。

「今日は高校の入学式なんだ。今日から始まる高校生活、楽しみだなあ。友達できたらいいな。」

いつものように桜の下に来て、今日の予定を話す。

「……この頃、君は元気がないように見える。一体どうしたんだ？」

一年中咲くこの桜は3月から4月になると、さらに花びらを舞い散らすのだが、最近は花がしぼんでおり、花びらを舞い散す数が減っている。

「…早く元気な姿を見せてくれ。…また後で来るよ。」

≡≡≡≡≡≡

桜坂高校は一年中咲く桜がある神社の山の近くにある。

徒歩10分ほどの場所に駅があり、すぐ側にはショッピングモールやカラオケなどがあって学生には持ってこいな町である。県内では有名な私立高校で進学率も高く、人気な高校であるため生徒数は半端じゃない。

しかも、今年は入学者が去年に比べさらに増えて、そりゃあもう…何て言うか…すごい。

「うわぁ…やっぱり多いな。なんか気持ち悪くなる…。」

僕は人ごみが嫌いだ。なんと言うか、自分が飲み込まれて流されるような、自分を見失ってしまうような気がする。

じゃあ何故この高校に入学したのかと言うと、単に神社の桜のすぐ近くだからと言う理由だ。

そんな理由で人生の大きな選択をするな、と言われても仕方ないが、

僕にとってはこれが一番適切で大切な理由なのだ。
あの桜が僕の人生を救ってくれた、変えてくれた。そしてこれからも救ってくれる。そんな気がして。

「早く始まらないかな。：それか抜け出そうか。」

なんてことを言う。

「ダメだよ、大事な入学式なんだから。ちゃんとしないと。」

いきなり隣から女の子に話しかけられた。

初対面でなんか馴れ馴れしいと感じるも、なんとか言い返す。

「だって嫌なんだよ。こんなに人がいると気持ち悪くなる。」

「それでもダメ。時と場所を考えなさい。」

何というか、委員長タイプだな。これで三つ編みで黒縁メガネだったら思いつき笑っていたよ。まあ、眼鏡かけてないしポニーテールだけど。

「はいはい、わかりました委員長さん。」

「まだ委員長じゃないわよ!」

「だって委員長っぽいわよ。」

「せめて世話焼きっていなさい!」

「それ自分で言って悲しくない?」

「ううつ……。」

なんというか、可愛いひとだな。まあ口には出さないけど。

「ははっ。君面白いね。僕は永井 春樹。君は？」

「わ、私は篠 美春よ。よ、よろしく。」

「うんよろしく。」

なんか委員長さん顔赤いけど、どうしたんだろう。

「ほ、ほら、もう始まるから静かにしなさいっ。」

「はいはい、わかったよ委員長さん。」

「委員長じゃないって…！」

「静かにね委員長さん。」

「ううつ…。」

からかいがあるな委員長さんは。

入学式（前編）（後書き）

中途半端に終わってごめんなさい。

物語が進むのは次の次ぐらいになると思います。

次回は8／20ぐらいに出せるといいなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1973n/>

桜の守護者

2010年10月10日03時32分発行